

釧路市中央図書館利用者のまちなか行動と消費効果及び経済波及効果

釧路公立大学地域経済研究センターと釧路市は、釧路市中央図書館(以下、中央図書館)利用者のまちなか行動及び消費額を把握するため、中央図書館周辺の通行量調査や中央図書館利用者へのアンケート調査を行った。

調査結果をもとに「平成23年度釧路市産業連関表」を用いた経済波及効果の算出に加え、まちなか行動・消費行動調査の結果や、先進自治体の取り組みを参考にした分析結果をまとめた。

1. 中央図書館利用者人数

- 2019年1月～12月の①中央図書館利用者数 + ②文学館利用者数を足し合わせ「中央図書館利用者人数」とすると、**214,815人**(※注1)の利用があった。
- 旧市立図書館の利用者数と比較すると**2.36倍の利用者増**(※注2)となる。

注1) 中央図書館利用者数として、通常は上記に加え図書館バスの貸出人数も加えているが、本調査において中央図書館(建物)の利用者人数をもとに推計するという趣旨を鑑み、図書館バスの貸出人数は差し引いた。

注2) 平成28年度市立図書館利用者数(95,177人)から図書館バス貸出人数(3,969人)を差し引いた人数(91,208人)との比較である。

2. 図書館利用者のまちなか行動



令和元年における平日(9/4)と休日(8/31)の通行量を比較しても、平日では平成27年の同時期比で196.5%、休日で194.9%と**約2倍の通行量**となっている。



年代別の行動パターンを分析すると、20代は買い物をする割合が全世界で最も高いことや、70代の女性は中央図書館利用の前後で外食をする率が高いなど、年代別・男女別で傾向が体系化できることがわかった。



アンケート結果を分析すると、10代～40代は中央図書館周辺のコンビニに立ち寄って菓子等を購入していることや、50代～80代は全体に比べ中央図書館周辺で水産品の購入が多く和商市場等で魚を購入しているなど、**年代別での消費傾向が明らかになった**。

3. 図書館利用者の消費行動と消費額



1人あたり**平均消費単価は1,146円(うち中央図書館周辺482円)**であり、外食費、弁当・菓子・飲料購入費等の消費が多い。周辺のコンビニに立ち寄って菓子等を購入しており、**中央図書館周辺での需要が一定程度ある**ことがわかる。また、**年代別で大きく傾向が異なる**こともわかった。

4. 図書館利用者による消費効果・経済波及効果

- 中央図書館利用者の消費による**経済波及効果は全体で2億3,660万円**（注3）となり、そのうち**中央図書館周辺の消費に限った波及効果は1億632万円**となる。

注3) 中央図書館利用者にかかる経済波及効果（全体）総額2億3,660万円の内訳を見ると、市内の生産増につながった「直接効果」は1億6,133万円、それが市内における原材料の生産増につながったのが4,196万円（1次波及効果）、これらの生産増が雇用者の所得増、市内での消費増をもたらし、それが生産増につながった効果が3,331万円（2次波及効果）となっている。

5. 本調査で明らかになったことを踏まえて

(1) 柔軟で多様な図書館運用による「まちなか消費」増

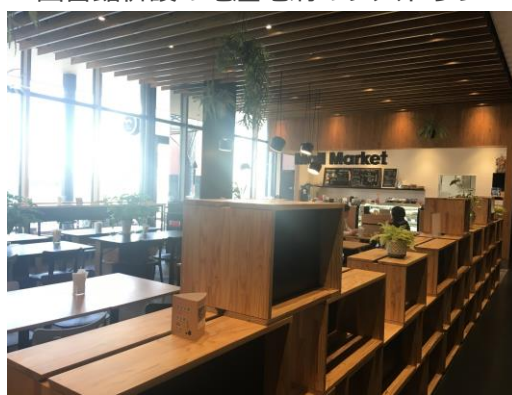


中央図書館利用者の消費意欲がまちなかでの消費に反映されていないため、図書館内で地場素材を使った飲食の提供などの**柔軟な運用や、多様な施設と連携した総合的サービスの提供等に取り組んでいく必要がある。**

例) 愛知県安城市
図書館1階でのマーケット



例) 宮崎県都城市
図書館併設の地産地消のレストラン



(2) 図書館周辺における情報発信の強化による回遊性向上



中央図書館を利用しなかった層への拡大や、利用者をまちなかへの回遊させるため、新しいまちなか活性化の動きと連携した情報発信等により、**図書館を「情報発信拠点」として運用する等取り組んでいく必要がある。**

例) 岐阜県岐阜市
図書館司書手作りのまちなかマップ



例) 宮崎県都城市
情報編集・発信コーナーで作成した冊子



【本件に関するお問い合わせ】

釧路公立大学地域経済研究センター

TEL (0154) 37-5325